

TOPICS 1

●埼玉県国土整備部

埼玉県が「SAFETY MAP」を活用し、道路環境の改善を実施

埼玉県国土整備部道路政策課では県内の道路整備による交通事故の未然防止と削減を目的として、ホンダが開発した双方向通信型カーナビ「インターナビ」のフロートティングカーデータ（インターナビ装着車の走行データ）を分析し、平成19年から23年にかけて潜在的な事故危険箇所（急ブレーキ多発地点）に対策を実施してきた。安全対策を実施した160カ所に対策後1カ月の急ブレーキ回数を比較したところ、約7割減少し、1年間の人身事故件数も約2割減少したという結果が確認された。

また、平成24・25年には登下校の時間帯のデータに着目し、通学路で歩道未整備箇所の安全対策を行っている。そして、平成25年からはホンダがインターネット上で公開している「SAFETY MAP」を活用した新たな取り組みを開始。「SAFETY MAP」は地域住民の方々をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップである。インターナビから収集した急ブレーキ多発地点、各警察本部や（公財）交通事故総合分析センターから提供される事故多発エリア、警察庁から提供されるゾーン30などの情報に加え、「見通しが悪い」「飛び出しが多い」など一般投稿された危険スポット情報も地図上に掲載されている。また、二輪車や四輪車だけでなく、自転車や歩行者の立場



急ブレーキ多発地点での対策の一例。街路樹を剪定して見通しを確保

からも危険エリアを確認し、共有することもできるようになっている。

「SAFETY MAP」の活用について、県土整備部道路政策課の上田主査は「交通事故の削減と道路の安全確保に向けて、コストの削減と事業のスピードアップが図れると考え、モデルケースとして『SAFETY MAP』を使った道路改善を昨年実施しました」と話す。

埼玉県では「SAFETY MAP」の情報をもとに、県が管理する道路の中で安全対策が必要な箇所をリストアップ。平成25年12月には和光市内の3カ所ですべて安全対策に取り組んだ。道路改善にあたっては、埼玉県と埼玉県警察本部など関係者が実際の交通状況を視察。急ブレーキや事故が発生する要因を分析し、対策案を検討したという。

「SAFETY MAP」の活用について、県土整備部道路政策課の上田主査は「交通事故の削減と道路の安全確保に向けて、コストの削減と事業のスピードアップが図れると考え、モデルケースとして『SAFETY MAP』を使った道路改善を昨年実施しました」と話す。

「SAFETY MAP」の活用について、県土整備部道路政策課の上田主査は「交通事故の削減と道路の安全確保に向けて、コストの削減と事業のスピードアップが図れると考え、モデルケースとして『SAFETY MAP』を使った道路改善を昨年実施しました」と話す。

「例えは、和光市本町（下記）道路改善例参照の信号交差点手前急ブレーキ多発地点があります。この要因としては、右折レーンが短い、右折待ちをするクルマの列が長くなると本線をふさいでしまい、後続車が急ブレーキをふんでいるのではないかと考えられます。そのため、センターラインにあるゼブラゾーンの幅を狭めて右折

「例えは、和光市本町（下記）道路改善例参照の信号交差点手前急ブレーキ多発地点があります。この要因としては、右折レーンが短い、右折待ちをするクルマの列が長くなると本線をふさいでしまい、後続車が急ブレーキをふんでいるのではないかと考えられます。そのため、センターラインにあるゼブラゾーンの幅を狭めて右折

「例えは、和光市本町（下記）道路改善例参照の信号交差点手前急ブレーキ多発地点があります。この要因としては、右折レーンが短い、右折待ちをするクルマの列が長くなると本線をふさいでしまい、後続車が急ブレーキをふんでいるのではないかと考えられます。そのため、センターラインにあるゼブラゾーンの幅を狭めて右折

「例えは、和光市本町（下記）道路改善例参照の信号交差点手前急ブレーキ多発地点があります。この要因としては、右折レーンが短い、右折待ちをするクルマの列が長くなると本線をふさいでしまい、後続車が急ブレーキをふんでいるのではないかと考えられます。そのため、センターラインにあるゼブラゾーンの幅を狭めて右折

「SAFETY MAP」は以下のホームページから無料で利用可能。 <http://safetymap.jp>

和光市内の3カ所で道路環境を改善

道路利用者の安全を確保するために



歩道の整備されていない通学路での対策の一例。法人・団体による安全の取り組みを示す「SAFETY ACTION」として表示されている

道路改善例① 県道112号線（和光市本町）

ゼブラゾーンを狭め、右折レーンのスペースを拡張



施工前

施工後



急ブレーキ多発地点

事故多発エリア

路面表示による横断者の注意喚起



施工前

施工後



みんなの追加地点
周辺の発生事故
みんなの意見
危ないと感じたことがある人は「そう思う」をクリック
見通しが悪い
道路が狭い / 歩道がない
スピードが出ているクルマが多い
歩行者 / 自転車の飛び出しが多い
右折待ちが多い
例：カーブがきつい
追加する

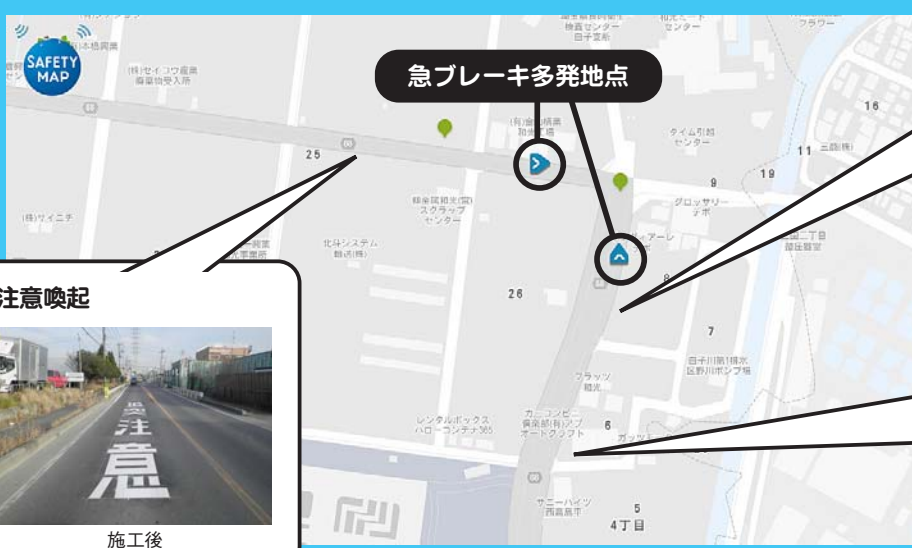
道路改善例② 県道88号線（和光市下新倉）

路面表示による追突防止の注意喚起



施工前

施工後



急ブレーキ多発地点

ドットライン設置による速度抑制の注意喚起



施工前

施工後

路面表示による速度抑制の注意喚起



施工前

施工後

※ゾーン30＝歩行者や自転車が優先される生活道路の安全対策として、区域内の道路を最高速度30km/hに制限した上で、ゾーンの入り口やゾーン内に標識および路面標示を整備して事故の防止に役立てるためのもの。

自分の運転を正しく評価できる能力を身につけてもらおう

皇宮警察本部は、天皇皇后両陛下や皇族各殿下の護衛と皇居、御所、御用邸などの警備を専門に行う警察である。機動護衛担当は天皇皇后両陛下・皇太子同妃両殿下が地方に行幸啓・行啓される際に、お召自動車の直近を白バイで護衛することを任務としている。この機動護衛担当の自動二輪車乗務員養成委託研修は、アクティブ



コーナリングでは70～80km/hで直進し、ブレーキをかけて180度コーナを曲がる(写真左上)。ブレーキでは60km/hで直進し、決められたポイントを通過したら急制動で停止する(写真右上)。全員が終了すると、お互いの運転について意見を交換(写真左下)

セーフティトレーニングパークもてぎ(以下、ASTP)で年1回行われている。今年は2月下旬から3月上旬にかけて10日間実施され、白バイ乗務歴2～3年の訓練員3名が受講した。研修のプログラムを立案したASTPの新家哲男さんは「ホンダが提供する『健康ドライブスクール(高齢ドライバー向け安全運転教育プログラム)』では自己観察法という手法を活用しています。これを取り入れ、自己の振り返りができる構成にしました」と研修の特色を話す。

研修初日には、指導を担当する鈴木正司インストラクターが「自身における評価と外部評価を照らし合わせ、その差異から自身の欠点や不足部分に気づき、また、今後の努力目標を見出ししてほしいと思います」とプログラムの主旨を説明。2日目に、各訓練員が白バイに乗車して、コーナリングとブレーキングを行う様子をビデオカメラで撮影。撮

影を始める前に、訓練員に運転自己評価表を配付し、コーナリング(右記参照)とブレーキングに関する運転技術を5段階評価で採点してもらった。撮影は一人ひとり行い、その際に他の2名は降車して一人の運転を観察。撮影終了後、お互いの運転について意見を交換した。そして翌日、撮影した映像を全員で見ながら各自の運転を振り返る。「コーナリングの時の運転姿勢や走行ラインはいいか? どうか?」と鈴木インストラクターが問いかける。ある訓練員が「姿勢はリーンウィズという指定でしたが、身体がバイクの傾きより内側に入ってしまった。走行ラインも外側にふくらんでいます」と答える。「そうです。映像をよく見ると、直線の強いブレーキが残ったままコーナリー進入しているのがわかります。その分、進入速度が若干遅くなったことが、きれいな走行ラインを描けなかった原因です」と、鈴木インストラクターが解説を加えた。映像による振り返りが終わると、前日に記入

- ★コーナリングの評価項目
- 以下の項目について、「実施前の評価」→「実施後の評価(振り返りと気づき)」→「課題設定」
- ①カーブに合わせた正確な減速ができていますか?
 - ②カーブの大きさに見合った速度で走行していますか?
 - ③カーブの走行中に先の状況が読み取れていますか?
 - ④安定した姿勢でカーブを走行できますか?
 - ⑤カーブ出口付近から直線に向けて、スムーズな加速ができていますか?

した運転自己評価表と同じ項目について採点する。「自分はこう運転しているだろう」というイメージと、実際の自分の姿は違うことに気づかされました。映像を見ることで、うまくできなかった原因、無意識のうちに出てしまうクセが把握できるので、何を改善すればいいか具体的にわかります」という声が訓練員たちから聞かれた。訓練員の一人は「このような意見交換ができる機会は重要だと感じました。今後の訓練においても良い点、悪い点を指摘し合いながら、相互の運転技術向上に努めていきたい」と語る。その後、各々がコーナリングやブレーキングの課題を確認した後、理想の運転をめざしてスラロームや高速からの急制動などに取り組んだ。



撮影の翌日、映像を全員で観ながら各自の運転について振り返る

振り返りによって課題を確認した後、それをクリアするためのトレーニングが行われた

※1 自己観察法=東北工業大学の太田博雄教授らが(公財)国際交通安全学会などで研究成果を報告しているもので、自分の運転をビデオで録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。
※2 リーンウィズ=コーナリング中のバイクのリーン(傾き)に対し、身体の傾きを同じようにそろえるフォーム

TOPICS



栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本にあるHondaの製作所に設置されている地区普及ブロックは、地域における交通安全普及活動の拠点である。各地区普及ブロックは昨年12月から今年2月にかけて「交通安全普及活動報告会(以下、活動報告会)」を実施。12月20日は熊本県で「九州地区活動報告会」、1月21日は三重県で「東海・近畿・中国・四国地区活動報告会」、2月7日は埼玉県で「関東・甲信越地区活動報告会」、静岡県で「東海・北陸・四国地区活動報告会」、2月14日は「北関東・東北地区活動報告会」がそれぞれ開催された。

活動報告会には警察や県庁、市役所等の代表者をはじめ、交通指導員やHondaパートナーシップインストラクターなど、5会場で372名が参加。各地域での活動事例が紹介されるなど、Honda及びHonda関連企業と、各地域の交通関係者が情報交換を行った。

3 より良い交通安全活動をめざす情報交換の場

●2013年交通安全普及活動報告会

期間中は、ホンダ及びHonda関連企業の従業員、販売会社のスタッフが「丸」となって、自ら率先して交通安全を実践。また、販売会社を含むホンダ及びHonda関連企業の事業所には、交通安全啓発の「のぼり」を掲示し、従業員・お客様・地域の方に広く交通安全を訴求する。さらに、お子さまと一緒に交通安全について考える「交通安全ぬりえ」も下記ホームページからダウンロードができる。

2 ホンダ及びびホンダ関連企業の従業員、販売会社のスタッフが

●ホンダ春のセーフティキャンペーン
「丸」となって交通安全を実践
ホンダでは「春の全国交通安全運動(4月6日～15日、主催:内閣府ほか)」に合わせ、4月1日～30日の期間、「2014年ホンダ春のセーフティキャンペーン」を実施している。テーマは「ホンダで働くヒトはクルマや地域(社会)にやさしい運転をめざします」交通安全故のない明るい地域社会をめざして。

●交通安全ぬりえ ダウンロード

ホンダ 2014 セーフティキャンペーン

ダウンロードした「交通安全ぬりえ」に色をぬって、家族で決めた交通安全の約束を書いたら、下記宛にお送りください。応募者全員にASIMO えんぴつをプレゼント!
【応募締切】5月16日(金)

〒107-8556
東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業(株)安全運転普及本部 交通安全ぬりえキャンペーン事務局 行
※送付いただいたぬりえは、ASIMO えんぴつと一緒に返送します。(4月25日以降、随時発送予定)
※お申込みいただきましたお客様の個人情報は、発送業務以外の利用は致しません。